

■米国：風力発電設備メーカーは2012年の風力導入量を900～1,200万kWと予測

2012年6月7日付の業界紙によると、6月6日に開催された米国風力発電協会（AWEA）主催の会議で、主要な風力発電設備メーカー（GE、ジーメンス等）の多くが2012年の米国内の風力導入量は900～1,200万kWに達するとの見解を示した。税制優遇措置の期限が2012年末となっているため、多くの駆け込み建設が行われており、2011年の風力導入量（681万kW）と比較すると大幅に伸びる見通しである。また、彼らは2013年の導入量についても言及し、2013年の導入量は2012年を下回ると予測している。理由は仮に近い将来、連邦議会で税制優遇措置の期限延長が認められた場合でも、風力建設には通常18カ月を要するため、税制優遇措置の延長決定後に建設し始めても2013年内の運転開始は困難なためである。多くの風力発電設備メーカーは米国内での建設減少が予測されることから、開発拠点をカナダや南米にシフトしつつある。